

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ : <http://www.library.city.kawasaki.jp/>



調べものにご活用ください

郷土資料・参考資料が充実

— 中原図書館 —

武蔵小杉駅から歩いて5分ほどのところにある中原図書館。川崎市立図書館の中では最も歴史の古い図書館です。

こちらは郷土に関する資料が充実しており、他の図書館にはない古い資料も数多く所蔵しています。そのため、わざわざ区外からお越しになる方も少なくありません。

できるだけ多くの方に郷土資料を手にとってご利用いただけるようにと、平成14年12月、図書館の3階部分に、「郷土・行政資料室」を開設いたしました。こちらにあるのは、所蔵している郷土資料のほんの一部ですが、資料室の開設以来、たくさんの方にご活用いただいています。

また、郷土のことに限らず、広く調べもののお役にたてるようにと、参考資料の充実にも取り組んでいます。調査用に法律や地方自治に関する雑誌を置



いたり、情報量が豊富で検索機能にも優れていることから、CD・ROMなどの新しい形の資料も取り入れつつあります。

相談カウンターも設けて調べもののお手伝いもしていますので、ぜひ一度足をお運びください。

皆さまのご利用をお待ちしています。

利用の多い郷土資料は...

川崎市の地図

住宅地図は昭和30年代、地形図は明治期のものから所蔵。古い地図は、町の移り変わりを調べるのに大活躍！

地元・神奈川の新聞

昭和22年分から保存している神奈川新聞。過去から現在まで、地域の出来事を調べるのには貴重な情報源です。

- 便利な電子資料 -

こんなCD・ROMがあります

調べたい記事がいつの新聞に載っているのかをキーワードなどから探せる新聞記事索引。

戦後の判例が検索できる判例集。

こんな貴重資料も！

佐藤惣之助・岡本かの子コレクション

川崎ゆかりの詩人・佐藤惣之助、歌人・小説家の岡本かの子に関するコレクション。原稿や書簡・雑誌などの一部の貴重資料は、平成8年に川

崎市民ミュージアムに移管されましたが、書籍等の出版物は図書館の書庫で保存しています。今では入手困難な貴重資料です。



浮世絵コレクション

川崎を題材にした50点あまりの浮世絵を書庫で保管しています。パソコンを使って手軽にご覧いただけるよう、ただいまCD・ROM化の作業中。



平成16年7月1日、市制記念日。ミューザ川崎のシンフォニーホールで行なわれた市制80周年記念式典において、図書館に深く関わりのある2つの団体が表彰されました。地域に根ざした活動で長年にわたり文化の振興に貢献してきた「川崎郷土研究会」と「私設ゆりがおか児童図書館」。

ともに功労賞を受賞された2団体をご紹介します。

郷土史研究会の草分け

— 川崎郷土研究会 —

川崎郷土研究会（藤岡信夫会長）は、昭和30年12月に発足しました。現在の中原図書館の前進である川崎市立中央図書館が川崎区富士見公園にあった（跡地は教育文化会館）頃でした。川崎市立中央図書館は、県立川崎図書館の建設に伴って現在の中原区小杉町に移転し、川崎市立中原図書館となりますが、図書館の移転とともに、川崎郷土研究会の本拠地も中原図書館内に移りました。

川崎郷土研究会は、川崎市の郷土研究の草分けであり、市域の郷土史研究の中心的役割を一貫して果たしてきました。機関誌『川崎研究』は、会の発足当初からほぼ年1度のペースで発行され、平成16年5月には第42号を発行しました。5月に行われる総会のほか、年間5～6回の巡検活動（フィールドワーク）、夏の県外巡検活動、講演会、また、川崎市文化祭参加



行事として会員による研究発表会および市内小中学校の児童生徒による研究発表会など、発足以来半世紀にわたり活発な活動をつづけています。現在の会員数は95名にのぼります。

今回の受賞は、永年にわたる地域研究の蓄積と継続した発表活動が評価されたものです。

本を通じたふれあいの場

— 施設ゆりがおか児童図書館 —



新百合ヶ丘駅からバスで8分。私設「ゆりがおか児童図書館」（渋谷益左右館長）は、静かな住宅街の中に建っています。「子どもたちに本を」との熱い思いから、昭和51年に渋谷氏が私財を投じて開設した児童図書館です。28年間、たくさんの子供たちに本との出会いの場を提供してきました。

ここでは、本の紹介や貸出だけではなく、おはなし会、人形劇、講座や読書会などの行事や学習会も活発に行なわれてきました。図書館の広報紙として発行

を続けてきた「ゆりの子だより」も、まもなく300号に達しようとしています。

図書館運営は、「ゆりの子会」が積極的に引き受けています。ゆりの子会は、図書館を支えるため、地域の方々や利用する子どもたちの親により自発的につくられた組織です。ゆりがおか児童図書館は、ゆりの子会とともに、人の輪、文化の輪を広げながら発展してきました。

ここは、さまざまなふれあいの場として愛されています。子どもと本とのふれあいはもちろんのこと、親と子のふれあい、子どもの成長を見守る大人たちのふれあいの場として地域の中にしっかりと根をおろしているのです。

ゆりがおか児童図書館 場所：麻生区東百合丘4-25-12
TEL：044-954-1740

読書の秋 読書のまち 11月7日は『かわさき読書の日』

川崎市では、平成15年から、11月第1日曜日の「かわさき読書の日」をはさんだ前後2週間を「かわさき読書週間」（今年は11月1日～14日）として、期間中さまざまなイベントや展示会を開催しています。今年も、「かわさき読書の日をつどい」や展示会など、子どもたちが楽しく本の世界へ飛び込んでいけるような企画を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしています。

川崎市の読書活動の推進に関する施策をまとめた、「読書のまち・かわさき子ども読書活動推進計画」ができました。各図書館のほか、図書館ホームページでもご覧いただけます。

かわさき読書の日をつどい

2回目となる今年は、小・中学生の読書活動にスポットをあて、「よい本をひろめる会」主宰の高橋正修さんの講演や中学生による読書活動の発表のほか、読書推進関係の展示も予定しています。

日 時 平成16年11月7日（日）
午後2時～4時（受付 1時～）
会 場 川崎市立橘高等学校 マルチホール
（JR南武線向河原駅 徒歩8分）
定 員 先着300人 入場無料
主 催 読書のまち・かわさき事業推進委員会
問合せ 教育委員会 指導課（Tel 200-3243）
くわしくは図書館の掲示やチラシなどでお知らせします。

企画展示のご案内

川崎市立図書館では、かわさき読書週間（11月1日～11月14日）の間、それぞれの図書館で、「教科書の中で取り上げられた本」の展示・貸出を予定しています。小学校の国語の教科書に掲載されている本を中心に、いろいろな本をご紹介します。

また、川崎駅地下街アゼリアの市役所通りの広報コーナーにおいては、10月26日～11月2日の間、川崎市立図書館を紹介するパネル等の展示をします。



図書館協議会活動報告書がまとまりました

図書館協議会の平成14・15年度の研究活動をまとめた報告書ができました。

「川崎市立図書館協議会研究活動報告書 ―図書館とボランティア―」は、市内各図書館のほか、図書館ホームページからもご覧いただけます。

ボランティアによる図書館活動の活性化は、近年、公共図書館のひとつの大きな課題となっています。図書館協議会では、「図書館とボランティア」をテーマに、2年にわたり研究協議を行ってきました。

今回の報告書はその成果をまとめたものです。図書館ボランティアとはどのようなものなのかを示したうえで、望ましいボランティア導入のあり方について提言する形となっています。

皆さまもぜひご一読ください。

図書館協議会って？

よりよい図書館サービスをめざし、市民の意思を図書館運営に反映させようと設置されたのが図書館協議会です。図書館長の諮問機関であるとともに、図書館行政についてのさまざまな提言を行なっています。

平成16年・17年度の委員は次の方々です。

○市川 雅英	川崎市文化協会 副会長
近藤 瞳	市民公募委員
佐藤 涼子	NPO図書館の学校 常務理事
高田 裕司	市民公募委員
高橋 和子	相模女子大学 学芸学部教授
永野 越子	南菅中学校長
名畑 辰次	有馬小学校長
二宮アユミ	ゆりがおか児童図書館 ゆりの子会
平野 英俊	日本大学 文理学部教授
松波 昭光	川崎市PTA連絡協議会 会計

（ 会長 ○副会長 50音順・敬称略 ）

かわさき歴史めぐり (4)

徳川氏の関東入国と川崎市域 - 4 -

法政大学名誉教授

村上 直

小泉次大夫吉次によって開削された二ヶ領用水は、現在の川崎市域を全長約8里(32キロメートル)にわたり貫流した、神奈川県で最も古い人工用水です。二ヶ領とは、この用水が武蔵国橘樹郡にある川崎領と稲毛領にまたがって流れたことに由来します。吉次は、用水の開削に当たり、対岸の六郷用水の開削と並行して工事を進行させました。六郷用水は武蔵国多摩郡世田谷領と荏原郡六郷領にまたがる地域を流れたので、二ヶ領・六郷両用水を一括して俗に四ヶ領用水とも呼ばれました。また、工事の指揮者の名をとって次大夫堀ともいわれています。ただ、その場合、四ヶ領用水は小泉吉次のみによって完成したわけではありません。吉次を支えた開削技術者や労働力を提供した近郊農村の庶民のことを忘れることはできません。地域社会はこうした庶民の協力によって形成されたのです。六郷用水を、別に「女掘おんなほり」といったのは、不足する労働力に女性も協力して参加したという話によるといわれています。

小泉吉次が二ヶ領用水の開削の調査をはじめた時期は明確ではありません。ただ、徳川氏の関東入国の直後、江戸近郊の開発の一環として、吉次自らが多摩川(玉川)の治水工事の重要性和分水による人工用水の必要性を家康に進言したとみることができます。その場合、関東領国の開発を担当した代官頭伊奈忠次が長谷川長綱を通して、事業の促進がはかられたというべきです。これについては市域から発見されている古文書や記録類からも推定することができます。

多摩川は天正17年(1589)と翌18年に連続して大洪水があり、流路が変化したといわれています。つまり、それまでの流路より北の方に流れ、現在の多摩川の流路になったのです。吉次は、かつて南の方を流れていた旧河道敷を利用して、低地に沿って開削工事を実施したとみることができるのです。駿

河国における水利土木の経験を生かして、二ヶ領用水の開削が行われたのですが、これには他の技術者の協力があったことは確かです。徳川氏の多摩川流域の開発については、先ず、江戸湾に面した、下流の河口周辺の平坦部である川崎領と対岸の六郷領が対象になったとみてよいでしょう。六郷用水とは、平坦部の六郷領(東京都大田区)の村々の灌漑を目的として開削された用水という意味です。本来は六郷領用水と呼ぶべきであったといえます。二ヶ領用水は、結局、地形の関係から川崎領から遡って稲毛領にまで及んだのです。それは人工水の取入口を開設する箇所が難しいので、旧河道敷に沿って稲毛領に入り、諸用水を統合していく地形である久地村(高津区)の周辺に到達することになったとみられるのです。これについては、六郷用水の取入口についても、結局、多摩郡和泉村(狛江市)に設けられた取入口まで遡ることになったのです。この点、文献史料だけではなく地形などによって調べることが必要です。

- 予約サービスをご利用の皆さまへ -

予約についてのお知らせ

11月1日から変わります

- 用意できた予約本を図書館に取置く期間は10日間になります。
(休館日をのぞいて10日間)
- CD等の視聴覚資料は、2点まで予約可能となります。

くわしくは、10月上旬からポスター・チラシなどにてご案内いたします。

編集・発行 川崎市立中原図書館

〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417

044-722-4932

川崎市立図書館:

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橘分館(788-1531)

幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918)

田島分館(333-9120)

柿生分館(986-6470)

中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400)

日吉分館(587-1491)

管覧所(946-3271)